



## 外からみた北条のいま

北条街づくり振興会青年部会長  
矢島祐介

2021年の北条の動きとして、3月に青年部会メンバーが運営する地域拠点「iriai Tempo（イリアイテンポ 代表：橋永貴郁）」が新町にオープン。6月にはパン屋さんが二軒立て続けにオープン。7月には廃校となった旧筑波東中学校の活用方法（ジオパークと自転車の拠点）が2023年に完成予定。詳細は裏面をご覧ください。が決定するなど、まちに変化がある年となりました。



訪れる人の傾向  
どういった人が北条を訪れているかというと、一番多いのは学園地区からですが、県外からは首都圏、特に千葉県からが多いようです。県内では土浦や水戸から多く訪れています。また、平日に東京から筑西や桜川へ仕事で訪れた人が帰りに立ち寄ることもありました。

私もイリアイテンポで店番をしながら地域の方々をはじめ、北条を訪れる方々とお話しをしたり、まちの案内をしています。そのほかに筑波山麓や北条でイベントを開催したい人達のお手伝いをしていますが、そういった活動を通して知ることのできた「外側からみた北条」の姿をお伝えしたいと思います。長く生活しているといつも変わらないまちのイメージですが、外からみた北条はどのように見えているのかを知る手掛かりになればと思います。

## 移住希望者は思っているより多かった

まず印象的なことは、移住やお店をはじめたい人からの相談が多いことです。イリアイテンポやSNSを通して「北条にいい物件ありませんか？」と聞かれることが多くなりました。新型コロナウイルスの影響で移住希望が増えている面もあると思いますが、地域情報誌の記者の方から教えていただいたところでは、北条関連の記事は他の記事と比べて多く読まれているそうなので、エリアとして注目度が上がっているようです。



訪れる目的は、平日は学園地区や土浦から通院やリハビリ、飲食店目当ての人が多く、土日は日帰りの観光が多くなっています。土浦からりんりんロードを経由してやってくる人や、大池・平沢から自転車で来た人が町中を走っていくことも増えています。

北条にどのような印象を持っているのかをお聞きすると、自然が豊富で、古い建物をリノベーションして若い人たちが活躍している地域として見られているようです。

## 課題

課題としては移住や起業希望の人はいるが、紹介できる物件がないことがあります。すでに移住者が増えているとはいえ、人口減少と少子高齢化という長期的な北条の課題が改善するほどではありません。また、すでに移住してきた人たちが、

## 「庭の井戸が再生されました」

NP法人、矢中の杜、の守り人 事務局長 中村泰子

道路から矢中の杜に入り、細長い敷地をグッと奥へ行くと旧矢中邸の建物が見えてきます。建物が見えてくる庭を「前庭」と呼んでいます。その前庭には井戸があり、この秋、手押しポンプがつきました。



矢中の杜の縦長で段差の多い庭のなかには、外で使える水栓が2箇所あります。でも、建物の向こうにある中庭と奥庭にあるのであって、前庭にはないのです。道路から前庭までは、草花に水をやるのにも、石の階段を上がって水を汲みに行くしか



東日本大震災による断水の時、新町のお宅の横井戸が開放され、大変役に立ったと聞きました。それがヒントになり、せっかく井戸の再生を考えるならば、ぜひそんなふうに貢献したい！と思ったのです。

なく、なかなか重労働。ホースを使うにも、なまかな長さでは届かない。昔からの井戸は、前庭に井戸（今ポンプがついたもの）と横井戸が2つもありながら、活用できていないという状況でした。



みんなで使う、が目的ですから、誰でも使えることが大前提。力が弱い方でも水を汲めるように、軽い力で使えるタイプを選択しました。新たに作ったポンプは、その名も「DRAGON」。建主の矢中龍次郎氏と同じ龍の名に、思わずにやつきました。災害などの非常事態はないに越したことはありません。が、いざそんな時には、矢中の杜の井戸も思い出してください。飲用ではありませんが、災害時の水源として使っていただけです。

【邸宅公開】  
毎週土曜日 11時~16時  
第2.4日曜日 13時~16時  
お一人様 500円  
(中学生以下無料)  
詳しくはこちら↓  
<https://www.yanakanomori.org>

## 交流拠点 iriai Tempo オープン

北条新聞1号に掲載した青年部会メンバーが運営する iriai Tempo（イリアイテンポ）が2021年3月にオープンしました。イリアイ



テンポには無料でご利用いただけるたまり場、筑波山麓の商品を中心に販売するイリアイ商店、時間制で仕事や読書などにご利用いただける座敷スペースがあります。また、座敷や建物を借り切ったイベントなどにもご利用いただけます。現在はリモートワークやフリーランスの方の職場として、打ち合わせ、研修会



場、ワークショップ会場、Youtubeの収録などにご利用いただけます。  
イリアイテンポの目的は、田舎のサー



ドブレイス（家でも職場でもない落ち着ける第三の場所）として地域の人々が楽しめる、活躍できる、新しいものに出会える場所を提供すること。そして外から訪れた人に、まちの入り口として北条や筑波山麓を知り、より楽しめる機会を提供することです。

交流・案内拠点としてすでに北条街づくり振興会の運営するふれあい館がありますが、土日祝日オープンふれあい館を補完する形で、平日の営業とイベントスペースの提供を行っています。

北条への関係人口を増やすために、筑波大の学生やつくば市などで起業やイベント、商品開発な



座敷スペース  
仕事や読書、ワークショップやイベント会場としてご利用いただけます。個人での利用は1時間400円（学生300円）でご利用いただけます（2022年1月時点）  
営業日：月～土（不定休）  
営業時間：10～17時  
詳しい営業日はインスタグラムかLINEをご確認ください



イリアイ商店  
筑波山麓で作られた商品を中心に販売しています。お米や味噌、コーヒー豆の他に作家さんの作った藍染、竹細工、陶器などがあります。  
ご予約、お問い合わせは公式LINEよりお願いいたします。



たまり場スペース  
たまり場は無料で利用できます。お茶やコーヒーはセルフでいただき、料金はお持ち帰り募金箱へお願いいたします。

## 古写真を集めています！

昭和35年よりも古い街並みやお祭りなどの写真がありましたら、よしや写真館へお持ちください。町の歴史資料としてデータ化し、保存いたします。※北条新聞や歴史写真展として活用させていただく場合がございます。

ホームページ  
<https://minnano-tokoubi.localinfo.jp>

メール QR コード  
minnano.tokoubi298@gmail.com

Youtube  
Facebook  
Twitter

ご意見・ご要望はメールまたは、お手紙で  
〒300-3292  
茨城県つくば市筑穂1-10-4  
つくば市大穂庁舎2F  
北条街づくり振興会事務局 まで  
発行：北条街づくり振興会青年部会  
発行日：2022年1月15日

# 旧筑波東中学校の利活用方法

つくば市 ジオパーク室 サイクルコミュニティ推進室

こんにちは。つくば市役所のジオパーク室とサイクルコミュニティ推進室です。今回、旧筑波東中学校を利活用した拠点整備について紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお祈いします。

## 旧筑波東中学校の利活用

筑波東中学校は、平成30年3月に閉校となりました。その後、利活用のニーズ調査が実施され、はじめに筑波山地域ジオパーク、続いて自転車の拠点整備が決まりました。現在は、令和5年度のオープンを目指して設計を進めています。



## 筑波山地域ジオパーク中核拠点施設の整備

ジオパークと自転車拠点を整備することで、旧筑波東中学校へ集客を図り、北条地区を中心とする旧筑波町エリアの地域振興につなげることを目指します。北条地区の皆様にも何度も訪れていただける魅力的な場所にしたいと考えていますのでぜひ施設づくりにご協力ください。

筑波山地域は、平野、山、湖がつくり出す環境によって、動植物、歴史、文化、農水産物、工芸品等に恵まれている地域です。筑波山地域ジオパークは、この魅力を発信することで地域を活性化し、



## 自転車拠点施設の整備

自転車拠点施設整備の検討が始まった背景には、「つくば霞ヶ浦りんりんロード(以下「りんりんロード」)を中心とした茨城県におけるサイクリングの盛り上がりがあります。りんりんロードは、令和元年11月に国から「ナショナルサイクルート」に指定されるなど、全国から大いに注目されており、利用者数は年々増加し、令和2年度には年間10万人を突破しています。そうした状況にあつて、旧筑波東中学校は、りんりんロードから約200メートルという自転車拠点施設として絶好の立地であることから、自転車拠点施設の整備が決定しました。

施設の機能の検討に当たって、令和2年秋に筑波山麓のサイクリストへのアンケートを行いました。



ジオパークの活動の中核を担う拠点施設の整備が決まりました。

本施設は、校舎1・2階の西側半分のスペースに整備を予定しています。1階は展示スペースとして来訪者の利用を、2階は主に事務スペースとしてジオパーク室職員の利用を想定しています。令和2年度に基本構想・計画を策定し、施設理念を「人とジオパークと未来をつなぐ」としました。様々なつながりに気づくための展示物と新たなつながりを生み出すための仕組みづくりによって、何度も訪れたくなる施設を目指します。

【筑波山地域ジオパーク中核拠点施設に関する問合せ先】  
つくば市ジオパーク室

TEL: 029-883-1111 (内線6381)

その結果を踏まえ、パーク&サイクルライドのできる駐車場、レンタサイクル、休憩施設、シャワー、自転車修理・整備機能等を整備する計画となっています。

整備の目的として先ほど地域振興を挙げましたが、駐車場と休憩機能がメインの施設では利用者の滞在時間が短いことが予想されます。そのため、施設に長時間滞在してもらい、地域に来訪者を誘導していくための機能が必要になります。そこで、グラウンド部分に「BMX(ビーエムエックス)レーシング」のコースを整備することとしました。



BMXレーシングは、車輪が20インチと小さい自転車を使用し、300〜400mのコースを走り抜ける速さを競う競技です。平成20年の北京五輪から五輪の正式種目となり、東京五輪でも大きな盛り上がりを見せました。丸1日もしくは宿泊の長時間滞在型で楽しむスタイルのスポーツで、飲食や宿泊等の需要を生み出し、地域振興に繋がること期待されます。

【自転車拠点施設に関する問合せ先】  
つくば市サイクルコミュニティ推進室

TEL: 029-883-1111 (内線3421)

# 北条のむかしばなし

第三回 北条町のむかし(上)

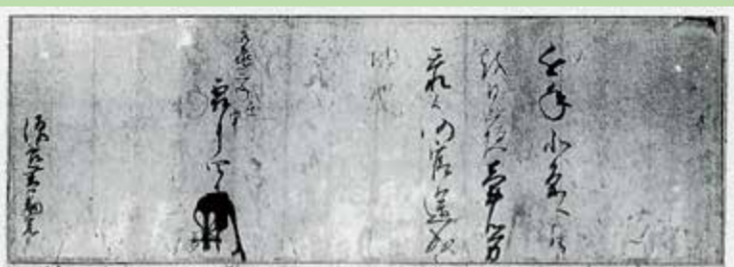
北条の現在の街並みの原型が形成されたのは、慶長7年(一六〇二年)からまもないある時期とわたしは推測している。もう四百年余のむかしのことである。

しかし江戸時代の小田の農政学者、長島尉信(やすのぶ)の見解はこれに異なる(「つくば市史料集」第五編六ページ)。「北条内町はもと今の所ではない。農家がところどころに散在していたが、今の所へ集まったのは、慶長十九年(一六二四年)の頃」であるとし、「中町は寛永七・八年(一六三〇・一六三一年)の頃に今の所に集まった」「新町は承応二年(一六五三年)の頃に今の所に移った」という。あるいはまた「今のように各戸が軒を並べ町なみを作ったのは寛永年中(一六二四〜一六四四年)とも書き記している(前掲書一六二ページ)」

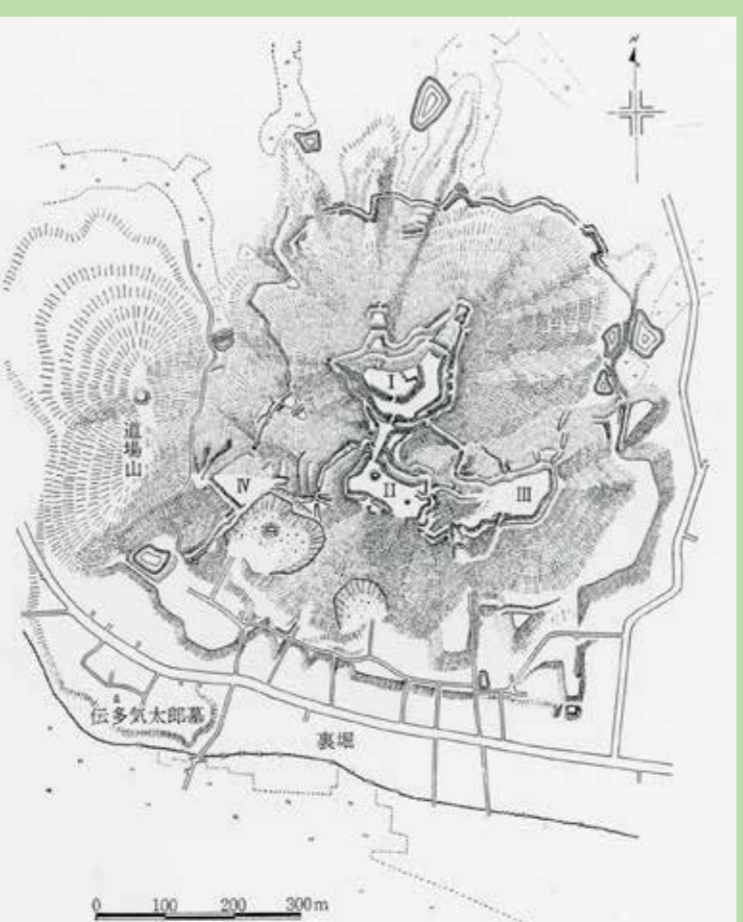
十六世紀以前の北条がどのような姿であったかは、まったく知るてがかりがない。ただ宿郷であったこと、全宗寺と無量院と熊野神社は中世に存在していたことは確かであるから(あるいは八坂神社も江戸時代以前にすでにあった可能性がある)、それなりの数の人々が居住していたことが想定される。「農家がところどころに散在していた」というほどきびれた村ではなかったと思われる。

そこで以下にわたしの考えを述べるわけであるが、たしか史料が少ないので、多くは推測になる。伝承や信用のおけない古記録などに依拠する場合もある。そのことをあらかじめ承知しておいてもらいたい。

北条の古地図が残っている(前掲書一六三ページ)。それには今の北条小学校のところに、「古城(ふるしろ)」という小字名と「道光ヤシキ」という記載がある。古城というのはここに砦(とりで)があったからであり、道光はその主であったのだ



いう)になったと伝える。元龜三年(一五七二年)頃になり、北条に新たな動きがあった。そのことは深谷滋氏所蔵文書から明らかに(筑波町史料集「第八篇一五三ページ」)。それは真壁氏幹(つじもと)から出された書状で、「近年北条にやって来て、日夜苦勞してくれてありがたい。よって玄蕃亮(げんぱのすけ)の



称を与える」とある。これによって知られることは、真壁氏がこの地を支配するに当り、北条に家臣を派遣して、直接経営しようとしたことである。北条の地が戦略的に重要視されるようになったのだ



いう。わたしのきくところでは、内町の古宇田家・岡野家もまた真壁から来たという。天正七年(一五七九年)には多気山に城が築かれた(「つくば市史料集」第八編一ページ)。今の城山は古くは多気山といわれた。この時に城が作られたことから、江戸時代以降城山というようになった。山の上を削平していくつもの郭(くるわ)を作り、そのまわりに深い堀をめぐらすのは、たいへんな労力であったろう。真壁や多賀谷の家臣ばかりではなく、地元の農民も人夫として駆り出されたことだろう。

これによって北条の戦略的位置づけは、ますます高まったと考えられる。この時点で真壁と真壁を配下とする佐竹とが敵と目するのは、小田原の北条勢である。戦国の風雲はまだまだ収まる気配はなかった。

天正十二年(一五八四年)の深谷家文書(筑波町史料集「第八篇一七二ページ」)には「長年仕えてくれてありがたい。特にこの頃は北条にお



このシリーズは郷土史家、井坂敦賢さんによる北条の歴史をたどるおはなしです。

なる豊臣秀吉によって小田原北条氏はほろぼされた。北条の地に敵が押し寄せてくる危機はなくなった。その後しばらくの間は平穏な日々が続いた。ところが慶長七年(一六〇二年)に至り、驚天動地の一大騒動がもたらされる。それが佐竹氏の秋田国替えであった。

ろう。道光は茂在幹雄氏の祖先と伝えるお人である。その人は大沢安房守重芳(おおさわあわのかみしげよし)に仕えていた。大沢氏は小田氏の一族といわれ、北条新田(小字名を大沢という)に館を構えて、この地一帯を領していた。永禄十二年(一五六九年)に佐竹勢に攻められて小田氏が没落したあと、この辺りは真壁氏の支配するところとなったが、大沢氏や道光は生きのびることができた。特に道光は北条のことに詳しいということで、真壁氏の案内人になったという(以上、前掲書一六二ページ)。一方大沢氏は北条の町が成立した時、宝安寺の開基(寺院を建てる時尽力した人を開基という。寺院を開いたお坊さんは開山と

いて苦勞をかけた。よって因幡守(いなばのかみ)とする」とある。天正七年に城づくりを始め、それから五年後のことである。この間に土木工事は終わっていたであろう。そして敵に備えた防備の方針や武器・武具の品ぞろえ、領地経営の方針も定まり一段落したところだ。これは深谷氏の功績をたたえるものであった。